

事務事業名		綾里診療所運営事業			☒ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	04 安心が確保されたまちづくりの推進			事業期間		予算科目				
	施策名	17 生涯にわたる健康づくりの推進					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	02 地域医療体制の充実			☐ 単年度のみ		14	01	01	01	01
所属	根拠法令				☒ 単年度繰返 (開始 平成13 年度～)						
	部課名	生活福祉部国保年金課			☐ 期間限定複数年度						
	課長名	今野芳彦			【計画期間】						
	係名	越喜来診療所			年度 ～ 年度						
担当者	新田進			※全体計画欄の総投入量を記入		02	01	03	01	01	
		電話	44-2103				02	01	04	01	
		内線									
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)											
地域住民の医療の確保と健康の保持増進を目的とする事業 主な業務は次のとおり①診療業務(火・木曜日9:00～12:00、月・水・金曜日14:30～17:00)②往診(随時)・訪問診療(計画により)業務③健康診断業務(個人、事業所健診) 事業費の内容は、人件費(医師、正看護師、非常勤看護師2名 ※医師は吉浜診療所所長が兼務)が主であり、その他に医薬材料費(薬剤等)、施設維持管理費(光熱水費、警備委託等)、医療事務業務委託費などがある。											
全体計画(※期間限定複数年度のみ)											
総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金								
			都道府県支出金								
			地方債								
			その他								
			一般財源								
	事業費計(A)		0								
	人件費	正規職員従事人数									
延べ業務時間											
人件費計(B)		0									
トータルコスト(A)+(B)		0									

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標										
① 手段(主な活動) 前年度実績(前年度に行った主な活動) ①疾病患者に対する診療、指導。②健康診断の実施。それを受けての事後指導。③訪問診療④往診(患者から依頼を受け随時対応)。 今年度計画(今年度に計画している主な活動) 前年度と同様					⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)					
					名称				単位	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 主に綾里地区の住民					ア 診療日数				日	
					イ 往診・訪問診療件数				件	
					ウ					
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 病気を治す。 病気を予防する。					⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)					
					名称				単位	
					カ 行政区域内人口				人	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) 早期に適切な医療が受けられる。					キ					
					ク					
					⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)					
					名称				単位	
					サ 延べ患者数				人	
					シ 健康であると感じている人の割合				%	
					ス					
(2) 総事業費・指標等の推移										
		単位	年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
			都道府県支出金	千 円						
			地方債	千 円						
			その他	千 円	8,442	10,282	10,892	10,000	10,000	10,000
			一般財源	千 円	71,788	64,989	57,094	70,000	70,000	70,000
	事業費計(A)		千 円	80,230	75,271	67,986	80,000	80,000	80,000	
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2	
		延べ業務時間	時 間	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	
		人件費計(B)	千 円	15,200	15,200	15,200	15,200	15,200	15,200	
		トータルコスト(A)+(B)		千 円	95,430	90,471	83,186	95,200	95,200	95,200
⑤活動指標		ア 日	241	239	237	237	237	237		
		イ 件	86	72	60	100	100	100		
		ウ								
⑥対象指標		カ 人	2,729	2,683	2,652	2,600	2,550	2,500		
		キ								
		ク								
⑦成果指標		サ 人	3,489	3,103	3,311	3,500	3,500	3,500		
		シ %	61.0	61.5	62.0	62.0	62.0	62.0		
		ス								

事務事業ID	0305	事務事業名	綾里診療所運営事業
--------	------	-------	-----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？			
地域医療の確保と健康の保持増進を目的とし、昭和38年8月から三陸村国民健康保険綾里病院として開設された。その後、昭和42年4月から町制施行により三陸町国民健康保険綾里病院と改称。平成元年4月から病院を廃止し診療所として開設。平成13年11月15日、大船渡市との合併により大船渡市国民健康保険綾里診療所と改称されている。			
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？			
・開設当初は病院(病床36床)であったが、入院患者の減少等により平成元年4月から診療所(病床19床)として開設した。また、大船渡市との合併時、無床化となった。 ・患者数は大船渡市街地への交通の利便性が高まったこと、開業医の進出また開業医による送迎バスの運行等から、年々減少傾向であったが、18年度以降増加傾向となり、近年はほぼ横ばいで推移している。 ・平成17年9月に専任医師が退職して以来、吉浜診療所と綾里診療所の医師が兼務している状況である。			
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？			
・今現在、綾里診療所の医師は吉浜診療所の医師が兼務しており、半日診療であることから患者から長期的な医師確保の要望が寄せられている。			

2 評価の部(SEE)＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒	この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	地域の医療ニーズに応えるべくこの事務事業を推進し、成果(病気の治療)をあげることで、市民一人ひとりの健康づくりの一環として重要な役割を果たしていることから政策体系と結びつく。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒	なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	・三陸地区はほかの医療機関(開業医等)の進出が困難なことから、市が実施主体とならなければ地域住民の医療の確保と健康の保持増進を図ることが不可能であることから関与することは妥当である。 ・道路整備が進んでいるが、いわゆる交通弱者である高齢者と子供が安心して受けられる医療の確保が必要。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒	対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	綾里地域において唯一の医療機関であり、市が関与することは妥当である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】⇒	成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	・求められる医療の質が確保できれば、利用が増える可能性はあるが、医師の確保が難しく、吉浜診療所と綾里診療所を医師が兼務している状況であり、これに合わせた効率的な体制を敷いていることから、現時点でこれ以上の見直しの余地はないと考えられる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	患者の大半は高齢者であり、移動手段の確保等の問題から、市中心部へ受診することが難しくなる。また、往診・訪問診療など在宅において医療を受けている患者にも影響が出ることが懸念されるため、事業を廃止・休止することはできない。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある ⇒(具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒	目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	綾里地区唯一の医療機関でありできない。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒	成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	昨年度、後発医薬品(ジェネリック)に切り替えており事業費を削減することができた。これ以外の経常経費も既に削減する努力をしており難しいと思われる。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託できないか？(アウトソーシングなど)	現在の業務所要時間が最低限の所要時間である。所要時間を削減すると、診療時間に影響を及ぼすことになり、サービスの低下を招く。医療業務は専門的知識・資格が必要であり、また、医療事故等の危険・責任もあることから、臨時職員での対応業務は難しい。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒	事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	患者窓口負担の割合が、国で定めた診療報酬で全国均一で定められている。

事務事業ID	0305	事務事業名	綾里診療所運営事業
--------	------	-------	-----------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 地区唯一の医療機関であり、往診や訪問診療など地域に密着した業務も行っており住民の健康増進に寄与していると思われる。																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 医師が、吉浜診療所と兼務しており、それに合わせた効率的な体制にしていることから、これ以上の見直しは難しいものと思われるため、当面は継続して事業実施していく。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 																							

2次評価者	(職 名) ※原則として施策の主管課長 国保年金課長	(氏 名) 今野芳彦
-------	-------------------------------	---------------

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(2) 2次評価者としての評価結果 ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 地域住民の医療の確保と健康の保持増進のため必要な事業である。																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 現状どおり継続して事業を実施する。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		●	×																				
	低下		×	×																				

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
--